



杉並区立
浜田山小学校

学校だより第557号
令和3年度1月号

はまだやま

校長 伊勢 明子
副校長 越山 宗治

「創る」

校長 伊勢 明子

明けましておめでとうございます。

新しい年の始まりに本年が皆様にとって幸多い年になりますようにと謹んでご挨拶申し上げます。

本年の干支は、「壬寅」で、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ華々しく生まれる年になるといわれています。厳しいコロナの状況が収まり、明るく希望に満ちた時間が戻り、活力ある日々が再び生まれてくることを願ってやみません。

さて、昨年12月に、連携先の慶應大学理工学部山口研究室と一緒に第6学年を対象に「プログラミングロボット」授業を実施しました。児童がグループで相談しながらベクターという小型ロボットを実際プログラミングし、地図上の道路を様々なミッションを果たしながら自動運転させるものです。距離センサーを用い障害物が出てきたら停止、信号機の色を認知するセンサーを用い走行、タッチセンサーを用い商品の受け渡しなどをプログラミングします。組んではロボットを地図上に置き、動きを実行します。なかなか思うように動かず道路から脱輪する状況も出ます。グループでディスプレイ上のプログラムを点検し不具合を見つけ協議しながら修正し、再度動かします。ディスプレイ上の中だけのプログラミングや動きだけでなく、実際のロボットが動き、プログラミングを検証するトライ&エラーが「学び」としてとても重要です。「思考」と「事象」が常に相互変換し、体験を通して論理的な思考を「創る」からです。本校では「主体的・対話的で深い学び」を追究してきました。



▲浜田山小学校屋上から見た、正月の富士山



▲プログラミングしたロボットを奥の卓球台の地図上で試行中

プログラミングにかかわらず「創る」には必ず「考える」（主体的）、「知恵や情報を集める」（対話的）が要件になります。今年の学芸会では、劇や演奏の中で児童が創る部分を格段に増やしました。その結果どの学年でも児童が表現に打ち込む状況が見られました。今年も全ての教育活動で「創る」を大切にしていきます。

なお、今回の本校プログラミング授業は、以下で紹介されます。
ご都合が合えばご覧ください。
番組：放送大学キャリアアップ講座（BS231チャンネル）
「AIプロデューサー～人とAIの連携～」
第5回「教育とAIロボット」
日時：2022年2月27日（日）22:30～

1月の生活目標「体をきたえて元気になろう」

浜田山小学校の子供たちは休み時間、外で元気よく遊んでいます。鉄棒やジャングルジム、登り棒などの固定遊具を使った遊び、鬼ごっこやボール遊び等、楽しそうに遊んでいます。みんなが納得いくルールを設けて遊ぶ姿も見られます。

休み時間は、密にならず怪我も少なくなるよう、中休みと昼休みで外遊びができる学年を分けています。教員も休み時間に見守りをし、安全にも気を付けています。また、自分たちで遊びのルールを工夫して遊ぶことは、譲り合いや助け合い等の社会性を育てていくためにとても大切なことで、「生きる力」につながっていきます。

想像力を高め、人とのかかわりを深め、そして体力も付く外遊び。そんな外遊びを奨励することで、楽しみながら健康な体と豊かな心を育て、心も体も健康な浜小の子にしていきます。